

# 平成28年度 学校自己評価システムシート ( 県立鳩山高等学校 )

目指す学校像	普通科、情報管理科併置の利点を活かし、生徒一人一人を大切に教育を行い、地域とともに歩む元気な学校
--------	--

重点目標	1 キャリア教育の充実と学力の向上 2 基本的な生活習慣とマナーの育成 3 活力ある学校行事と部活動の展開 4 地域の様々な機関との積極的な連携強化と地域行事への参加
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校関係者	4名
出席者 生徒	3名
事務局 (教職員)	12名

学校自己評価						
年度目標				年度評価 ( 2月6日現在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	観点 次年度への課題と改善策
1	○学び直しの取組が定着し、少しずつ成果をあげている。継続的な取組を行う。 ○教員の授業力向上のため、教員相互の授業公開などの取組を進める必要がある。	○効果的な学び直しに取り組む、生徒の基礎学力を定着させる。	①授業における効果的な学び直しの取組や学習サポーターの効果的な活用などにより、基礎学力の定着を図る。 ②授業研究週間を設け、教員相互の授業観察を実施し、授業力の向上を図り、充実した授業を推進する。 ③各種検定とその補習に取り組むことで基礎学力の定着を図るとともに上位級の資格取得を推進する。	①達成度確認テストを定期的実施し、前回よりも得点率が向上したか。 ②授業アンケートで「授業が理解できる」生徒の割合が90%を超えたか。(H27 85.9%) ③検定の合格率が前年度より向上したか。(H27 53.2%)	ステップアップ・プロジェクトとして方策をまとめ、基礎学力の定着を推進し、概ね全員の生徒が進路を決定した。 ①数学では1年の得点率が40.5%から50.3%へと向上 ②「授業が理解できる」生徒の割合が90.0%と上昇 ③合格率45.7%とやや減少	B ○国語の段階的な漢字学習や数学の達成度確認テストの実施等、学び直しの取組が定着し、少しずつ成果をあげている。次年度も継続的な取組を行う。 ○教員の授業力向上のため、授業アンケートに基づき、教科内で検討をする必要がある。
	○2年次インターンシップの定着など、引き続き、キャリア教育を計画的かつ組織的に進める。	○目標と職業観を持った生徒を育成する。	①キャリア教育を念頭に置いた総合的な学習の時間の年間指導計画を実施する。 ②進路の手引き等を活用して、3年間を見通した進路計画を立案し、実行する。	①キャリア教育が計画通り実施できたか。 ②進路決定が100%を達成したか。	①年間計画を策定し、計画どおり実施 ②年度当初に進路の手引きを発行し、活用。進路決定率ほぼ100%達成	A ○インターンシップの定着を中心とし、事前・事後学習の充実を図り、引き続き、キャリア教育を計画的かつ組織的に進める。
2	○基本的な生活習慣・マナーを身に付けさせるため、本校の強みであるきめ細やかな指導、ボランティア活動を通じた心の育成に引き続き力を入れる。	○個に応じた指導方法を定着し、基本的な生活習慣・マナーを身に付けさせる。	①朝、駅でのバス乗車指導、遅刻指導やあいさつ指導を継続的に実施する。 ②面接機会等の充実を図り、スクールカウンセラーとも連携し、個に応じたきめ細やかな指導を展開する。	①欠席・遅刻者の割合が前年度より減少したか。(H27 欠席率5.5% 遅刻率3.5%) ②スクールカウンセラー・巡回支援員による相談活動が実施できたか。	生徒は落ち着いて学校生活を送っており、指導の成果が見られる。 ①欠席率6.1% 遅刻率3.3% ②スクールカウンセラー年間22日・巡回支援員年間5日間訪問。生徒・保護者への教育相談や教員の指導方法への助言を実施	A ○基本的な生活習慣・マナーを身に付けさせるため、本校の強みであるきめ細やかな指導、ボランティア活動を通じた心の育成に引き続き力を入れる。
	○ステップアップ・プロジェクトを推進し、さらに生徒に自信を持たせる取組を充実させる。	○豊かな心の育成のため、県の事業を活用し、ボランティア活動を充実させる。	①日々の教育活動を通じて、挨拶、マナー身だしなみ等の指導を継続的に行う。 ②県指定事業を活用したボランティア活動をはじめ、多様な体験活動を実施して人間関係の構築をし、活動意欲を喚起する。	①学校全体として組織的に統一した指導ができたか。 ②体験活動を実施し、80%以上の参加者が成長を実感できたか。	①整容指導・遅刻指導を組織的に実施 ②ボランティア参加生徒の感想から概ね達成	A ○ステップアップ・プロジェクトの柱となる生徒に自信を持たせる取組をさらに充実させる。
3	○活力ある学校行事を目指した取組は、成果を上げている。生徒会中心に更なる継続的な取組を行う。	○生徒会中心に生徒の主体的な取組による学校行事を実施し、生徒の意識を高める。	①文化祭等の学校行事を生徒主体に実施し、学校行事に対する生徒の参加意欲を高める。	①行事に対する生徒アンケートで満足度が90%を超えたか。	生徒会役員を中心として主体的に学校行事が運営された。部活動に参加する生徒が学校説明会や地域行事に積極的に参加をし、活躍した。 ①文化祭後のアンケートで89.4%の生徒が「よかった」と回答	A ○活力ある学校行事を目指した取組は、成果を上げている。生徒会中心に更なる継続的な取組を行う。
	○部活動の活性化に向けた取組を工夫する必要がある。	○部活動に参加する生徒を増やし、部活動を活性化させる。	①部活動間の協働体制による取組を工夫し、部活動への満足度を高め、活性化させる。 ②大会や発表会の様子を校内外に積極的に発信し、部活動を活性化させる。	①部活動へ参加している生徒が活動に満足しているか。 ②Webページや学校新聞により広報が行われたか。	①部活動全体で生徒・保護者対象の講演会やトレーニング講習会を継続的に実施 ②部活動単位で地域行事に積極的に参加。各部活動顧問によるWebページの更新回数が増加。学校新聞を年4回発行し、地域へ回覧	A ○部活動の加入率を高め、活性化に向けた取組を工夫する必要がある。
4	○地域への情報発信の取組や町との連携が進み、成果を上げている。町の財産としての学校を目指し、今後も更に地域との連携に力を入れていく。	○地域との連携を生かし、募集定員を確保する。	①学校説明会、出前授業等の内容を充実させる。 ②近隣大学・企業との連携を強化し、教育力を高める。	①学校説明会等への参加者が昨年度より増加したか。 ②地域の大学・企業との連携が図られたか。	近隣大学・短大からの出前授業等を実施し、地域の行事に参加することにより連携を深めた。 ①参加者354名と30名減 ②出前授業・講演会を実施。地元企業と商品を開発し、販売	A ○本校が進める「実学を重視した学校づくり」についてさらに協議を深め、効果的な広報により生徒募集に結びつける。
		○本校の教育力を生かし、地域との交流を深めるとともに、地域の教育力も活用する。	①生徒・教員で地域との交流事業に多く参加し、地域に貢献する。 ②小中学校や地域に人的・物的教育力を提供し、交流を深める。	①生徒・職員が地域の活動に参加し、貢献できたか。 ②小中学校や地域との連携事業に教育力を提供できたか。	①町の夏祭り、はとやま祭、ふれあい広場、駅伝大会等のイベントに参加 ②小学校2校と連携事業。中学校へ出前授業を実施	A ○文化祭や講演会の案内を地域へ配布し、地域との連携が進み、成果を上げている。さらに鳩山町との連携を計画的・組織的に進める。

学校関係者評価	
実施日	平成29年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○学習サポーターについては、他大学にも依頼をし、さらに活用できるようにしていただきたい。 ○授業公開では良く練られたすばらしい授業を拝見した。ベテランの先生の授業を若い先生方が観察している様子が見られ、大変すばらしいと感じた。 ○インターンシップにより体験することで自分に合っているか否かがわかる。他者から評価いただく機会となっており、意義のある行事である。	
○高校の若い感性を持っている時にどのような生活をしてきたかが、その後の人生に影響を与える。自分たちがしていることが自分だけで完結するのではなく、後輩にもつながっていくことを意識させることが必要ではないか。 ○卒業後に鳩高の看板を背負っていくことを意識させ、在学中にその礎を築いていくことが大切である。	
○行事でただ単に地域と連携をするだけでなく、さらに工夫が必要である。鳩山には他にも連携のできる事業所や機関がたくさんあるので今後、どのように交流をしていくか、鳩高のプラスになるように考えていただきたい。 ○部活動の活性化については、ぜひ今後も取り組んで欲しい。	
○地域と常に連携し、地域になくはない学校になっていただきたい。 ○学校の魅力が伝わっていないのではないか。地元の中学校からの進学者がたくさんいる学校であって欲しい。 ○「実学を重視する学校」を目指し、さらに鳩高の強みを生徒と教員がしっかりと認識することが大切である。	